

2012年
8月号

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.61)

Mini-WAN

～三河港湾事務所だよ～



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

Contents!

最近のトピックス

- ★豊橋みなとフェスティバルが開催されました
- ★三河港・衣浦港地震津波対策検討会議(第4回)を開催しました
- ★浚渫兼油回収船「清龍丸」が三河湾で訓練を実施しました
- ★御津地区の防災訓練が行われました
- ★田原市の六連小学校が表彰されました
- ★優良工事等及び関係協力会社の事務所長表彰がおこなわれました
- ★三河湾環境チャレンジが開催されました



最近のトピックス

★豊橋みなとフェスティバルが開催されました

7月16日の「海の日」、三河港神野地区、豊橋駅前、シーパレスリゾートの3つの会場において、豊橋みなとフェスティバルが開催されました。このイベントは、市民の皆様にも、みなとを身近に感じてもらうのを目的として毎年開催されており、今年で39回目となりました。

当日は、天気にも恵まれて非常に暑い中、3万人を超える大勢の方が神野地区に訪れました。三河港クルーズや三河港周辺にある企業(トヨタ自動車、花王、新来島豊橋造船)の工場見学ツアーや、移動水族館、ダンス、太鼓演奏などの様々イベントが行われ、大変賑わっていました。

中部地方整備局では、当イベント前日に三河港内で油回収訓練を行った「清龍丸」の一般公開をしました。(※油回収訓練の様子は次ページに掲載)
「清龍丸」は、普段は名古屋港で浚渫工事を行っています。油流出事故が発生した際は、油回収作業を行う作業船で、三河港での一般公開は平成18年に続いて2回目となります。

今回の公開では、2千人を超すたくさんの方に見学していただきました。船内を見学された方々は、浚渫した土を貯める泥艙をのぞき込んだり、操舵室の計器や操作パネルなど、普段では見られない船内を興味深く見学していました。



イベントを楽しむ来場者の方々



清龍丸の一般公開に並ぶ見学者

★浚渫兼油回収船「清龍丸」が三河湾で訓練を実施しました

7月15日、田原市姫島沖の三河湾内にて、中部地方整備局名古屋港湾事務所に所属する我が国最大の浚渫兼油回収船「清龍丸」が、油回収訓練及びヘリコプター離着船訓練を実施しました。

今回の訓練は、翌7月16日に開催された「豊橋みなとフェスティバル2012」での一般公開のための来港に併せ、三河湾内での大規模油流出事故や大規模災害時を想定して実施したものです。

ヘリコプター離着船訓練は名古屋海上保安部との合同で実施され、同保安部所属の巡視艇「みずほ」を飛び立ったヘリコプターが上空を旋回した後に「清龍丸」後部に装備された離着陸用デッキに着陸、数分後に再び上空へと飛び立つと、無事「みずほ」に帰艦しました。

油回収訓練では、2種類搭載されている回収器のうち「渦流式油回収器」と呼ばれる低粘度用の装置を両舷から水面に下ろし、実際に回収装置を作動させて、流出事故本番さながらの回収訓練を実施しました。当日の訓練の様子はテレビや新聞でも紹介され、三河地域の方々の防災に対する意識の高さを改めて知る良い機会となりました。



清龍丸に着陸するヘリコプター



油回収訓練の様子

★三河港及び衣浦港地震津波対策検討会議(第4回)を開催しました

7月7日、三河港湾事務所管内の港湾を対象に、地震・津波対策検討会議を開催しました。午前は碧南市の衣浦港湾会館で、名古屋大学大学院水谷法美教授を座長に、午後からは、豊橋市の名豊ビルで大阪大学大学院青木伸一教授を座長に招き、それぞれ第4回の会議を開きました。

今回の会議では、前回までの会議で承認された基本方針のフォローアップや企業ヒアリングの結果の紹介、事業継続計画(BCP)の策定及び広域防災拠点策定のスケジュールを事務局から説明しました。

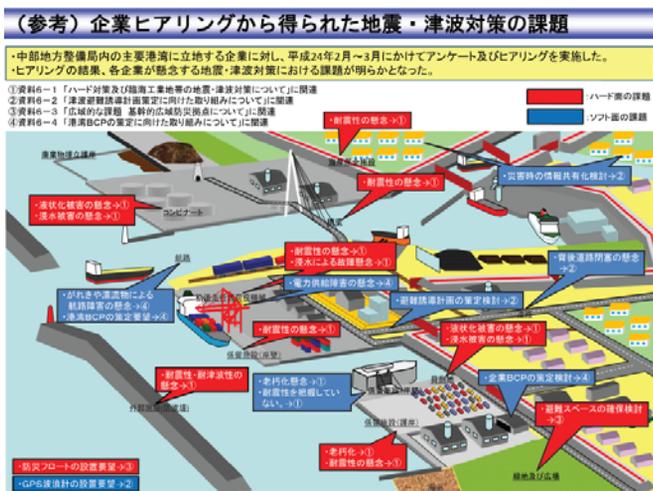
その上で、参加者から、基本方針に従って対策を行う上での意見を頂きました。

具体的な意見として、衣浦港では「船の避難についてどのように情報を連絡するのか」「耐震強化岸壁を増やして欲しい」といった意見がありました。また、三河港では「検討はスピードが大事。震災直後は防災意識が高かったが、意識低下の速度は速い。」「広域での対策を考えることは重要。」等の意見がありました。

今後は、頂いた意見を対策に反映させるとともに、内閣府のシミュレーション結果を受け、想定津波を修正していくこととしています。



会議の様子



※当会議の詳細及び第1～3回の地震・津波対策検討会議については下記に掲載しています。

<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/topics/jisintunamikaigi.html>

★御津地区で地震津波想定防災訓練が行われました

7月6日、御津臨海企業懇話会主催の防災訓練が開催されました。この訓練は、将来危惧されている5連動(東海・東南海・南海・日向灘・南海トラフ沿いの海溝軸)地震が発生した場合に、御津地区の企業が相互に連携・協力して、人的、物的被害の軽減を図ることを目的に行いました。

当日は御津2区の企業の従業員約150名が訓練に参加し、同地区の事業所の代表者及び地元自治体、消防・警察の関係者約50名が見学しました。

訓練は地震発生から始まり、一次避難、防災本部設置、自衛消防組織の編成、被害状況確認・報告、負傷者救護、火災発生による消火活動、津波情報に基づく近隣就業者の受入れ、避難誘導や2階への二次避難の訓練が施されました。訓練の最後には、起震車体験も行われました。

訓練後の反省会では、参加者の方々は「事前に準備をしていたが訓練時にはあがってしまった」「近隣就業者の方の避難誘導がおろそかになってしまった」「初めて消火栓を使うことができ、いい体験になった」「事業所での訓練の機会がほとんどなく、参加させていただきありがたい」と感想を述べていました。その後、豊川市消防本部の職員の方による講評があり、「避難する際に、先に救護者の方を避難させてほしい」「避難場所の安全確認をしっかりと行ってほしい」といった改善意見がありました。また、見学された事業所の方からは、「今までは形式的な訓練となっていたので、今後の訓練



救護活動の訓練の様子

に生かしたい」との意見が出されました。

最後に、豊川市の職員から「豊川の人口約18万人に対し、消防本部の職員が約180名しかいない」との紹介があり、「災害時の自助努力のお願いや、互いに協力して防災対策に取り組んでいくことは非常に重要なことである」との話がありました。

当事務所では、災害発生後、船舶が支障なく航行でき、早期に緊急物資や通常貨物を取り扱うことができるよう、海上保安部や港湾管理者と連携して速やかに航路啓開、岸壁の復旧を行えるよう準備を怠らず、また将来の大災害に備え、耐震強化岸壁などのハード対策を進めると同時に、三河港・衣浦港の各地区での防災の取り組み等、ソフト対策の支援を行っていきます。



起震車を体験及び見学する参加者の方々

★田原市の六連小学校が表彰されました

7月19日、田原市立六連小学校が「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の三河港湾事務所長表彰を受賞されました。

この表彰の目的は、沿岸域の住民・船舶の利用客・海を愛する方々等による、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、より一層海への親しみを深めてもらうところにあります。田原市立六連小学校は、長年にわたり地元の海岸清掃を実施すると共に海を大切にすることを啓発し環境保全に対する理解を深められていることが高く評価され、今回の受賞となりました。今後も、この素晴らしい活動を継続していただければと思います。



表彰式の様子

★優良工事等及び関係協力会社の事務所長表彰がおこなわれました

7月26日、当事務所会議室にて「平成24年度優良工事等の事務所長表彰及び関係協力会社の事務所長表彰」を行いました。工事部門は「平成23年度三河湾航路泊地(-12m)浚渫工事」を担当した(株)本間組及び同社の監理技術者、田邊健一さん。そして(株)本間組の関係協力会社の(株)小島組及び同社の主任技術者、野村浩さん。並びに(株)おかもら及び同社の主任技術者、花井正貴さん。

業務部門では「平成23年度三河湾水底質環境改善検討調査」を担当した国際航業(株)でした。4社と3名には宮田所長より表彰状が手渡されました。

宮田所長は挨拶で「災害対策をはじめとして、社会資本の整備維持管理、長寿命化等は皆様方の建設技術なくしては成し遂げることはできません。引き続き、良好な社会資本整備のために、ご支援を重ねてお願いいたします。今回受賞された技術や現場管理能力の更なる研鑽に努められ、今後も他の模範となる工事、業務の実施をお願いすると共に、長年にわたる貴重な知識と経験をもとに後進の指導に当たられますようお願いいたします。」と述べ、受賞された方々を激励しました。



表彰された方々と宮田所長

★三河湾環境チャレンジが開催されました

7月6日、三河湾環境チャレンジが開催されました。三河湾環境チャレンジとは、三河湾で海洋環境調査を行い、自然環境の疑問や課題を解決し、理解を深めることを目的として蒲郡市が平成17年より継続しているプロジェクトです。

当日は、蒲郡市の生命の海科学館のインストラクターの方が講師となり、蒲郡西部小学校の6年生の児童と先生合わせて11名が参加しました。

三谷漁港から当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船して竹島や大島の付近を航行しながら海水の透明度測定を行ったほか、ペットボトルやストッキングを再利用した手作りの採取器具を使い、海水やプランクトンを採取して水質や生物を調べました。

小雨がぱらつき、少し海も荒れていましたが、児童達はインストラクターの指示に従って、真剣に調査に取り組んでいました。また、船上から見た自分達の学校や港や街並を興味深そうに見学していました。

当事務所では、三河湾への理解をより一層深めていただくために、地元自治体や学校関係者及び地元NPO等への環境学習支援を行っています。今後も、このような支援を通じて、三河湾への理解や当事務所が行っている港湾事業への理解を深めるための取り組みを実施していきます。



船上で調査する児童達

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河湾事務所
〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp